

元気に な～れ

327

住み慣れた地域で
安心した生活を送る…とは？

今月は 社会福祉士 畑山 賢二です

介護保険やその他の制度の“目的”で、当たり前のように「住み慣れた地域で安心した生活を送れるよ…」という言葉が聞かれます。

今回はこれをテーマに、高齢者の生活について皆さんと考えてみたいと思います。

私は、地域包括支援センターの職員として、高齢者宅へ訪問する機会が多いです。

訪問のきっかけは、「掃除や調理が大変になってきた」「病院への通院が大変」などという様々な要因から始まりますが、実際に自宅へ伺ってみると、単純に加齢からスムーズな動作や思考ができなくなり、日常生活力が低下してきたことで、生活の問題や課題が生じている高齢者が多いです。



●たとえばこんな人をよく見かけます

- ①請求書など送られてくる書類が読めない・理解に困難性があるなどから支払いが滞っている
- ②提出しなければならぬ書類が期限までに出されていない（「年金受給権者現況届」など）
- ③薬がきちんと飲んでいない …など

●年齢とともに現れる生活力の低下

若い頃は何ら問題なく行えていたことが、**身体が思うように動かない、スムーズに考えることができなくなる**ことで、本人自身の諦めや他者に協力を申し出ることでもできずに放置し、時間の経過と共に徐々に日常生活の支障が大きくなってきているようです。

もちろんきちんとできている方もおりますが、上記のように何らかの「**日常生活力の低下**」の症状が現れている方が多いです。

もし、第三者がこのような場面を見たとき、「ヘルパーなど頼んでみたら!？」と助言する方が多いと思いますが、介護認定を受けてみると“自立”と認定され、介護保険サービスを受けることができない、単なる加齢によって生じる「日常生活力の低下」となるわけです。これらを放置すれば、健康・生活状況の一層の悪化に至る可能性が高いです！



●限られる支援と担い手

改善・予防的観点からの関わりや支援が必要ですが、公的サービス（介護保険サービス）を利用できない現状で、誰がどのように支援を担うのかが大きな問題となります。

このような時、強い支援者や協力者となり得るのが“家族（子供達など）”なのですが、同居していないことでスムーズな支援や協力が難しかったり、中には、身寄りがなく、家族などの支援を受けられない方もおります。

●難しい問題・・・

このように、少子高齢社会がもたらす現状では、様々な課題や問題が起きています。

本当に難しい問題です。人生ですから、どうしたら良いか答えはありません。

しかし、決して他人事ではなく、自分の問題である認識が必要で、上記のような場面に「ならないよう」、また「なった場合にどうするか」は、**元気なうちに考えておく必要があると思います。**

「住み慣れた地域で安心した生活」とは何なのか、それに対して地域包括支援センターとして何をどこまでできるのかなど、日々考えさせられます。